

2015 (H27) 年 9 月 28 日

ジオパーク秩父再認定審査現況報告

秩父まるごとジオパーク推進協議会

① 概況 (はじめに)

2011 年 (H23) 9 月 5 日に、秩父市・横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町の 1 市 4 町をエリアとする「ジオパーク秩父」は、日本ジオパークとして認定された。

ジオパーク全体のテーマを「大地の守人を育む ジオ学習の聖地」として、秩父の自然、歴史、文化、伝統、芸能を受け継ぎ育むために、ジオパークでの活動体験により、地域に愛着を持ち、地域とともに暮らす人々への啓蒙や子どもたちの育成に力を入れている。

エリアとなる地域は秩父盆地とそれを取り囲む秩父山地というひとまとまりの地形によって構成される。

従前の市や町ごとに特性をいかして個別の活動を展開していた秩父の地域観光においては、各自治体の伝統や特色は反映されやすいが、施策・事業やパンフレットも関連性が乏しく、観光客にとっても秩父地域一帯を楽しむには必ずしも快適な状況ではなかった。

ジオパーク秩父では、「ジオと信仰」「ジオと歴史」「ジオと産業」「ジオと絵画」「ジオと文学」「ジオと音楽」「ジオと食」「ジオとアニメ」「ジオと乗物」など、秩父地域の多彩な観光資源・地域資源と人々の暮らしなど、秩父地域一体となったジオパークを連携させることにより、異なる観光資源を結び付け地域独特のジオストーリーを醸成している。

それら地域資源との連携（秩父ではジオ味を付けると言っている）は、ジオパークに興味を抱いてもらう活動として好評であり、講演依頼やガイド依頼も多く、リピーターの増加につながっている。

ジオパークに認定されたことにより、1 市 4 町で構成される「秩父まるごとジオパーク推進協議会」（以下、推進協議会）の活動は地域一帯を考えることにより、今まであまり機能していなかった各自治体間の新たなネットワークを生み、各地域の強みを活用した様々な事業を展開することで「秩父はひとつ」という認識を浸透させている。

② 提出したアクションプランの進捗状況の概要

認定時に示された課題・改善すべき点に対して、提出したアクションプランについては、次のとおり対応している。

(1) 首都圏での宣伝活動が不足している、ガイドブックや案内マップを充実させ、駅周辺など目立つ場所に置いてもらうよう働きかける必要がある。

→当推進協議会事務局が観光課内である強みを生かし、都内等で開催される複数のキャンペーン活動に積極的に参加しPRするとともに、NHKでのジオパーク秩父の紹介・特集や、当協議会の構成団体である西武鉄道と連携し、テレビCMやラジオCM、池袋駅でのデジタルサイネージ放映（ジオパーク秩父の紹介映像を独自製作）などPR活動を強化した。

→東京都豊島区・荒川区と姉妹都市提携を結んでおり、交流にジオパークを活用するなど関連事業を実施している。

→推進協議会事務局を西武秩父駅前の秩父観光情報館内に置き、パンフ・マップ等を置いており、西武秩父駅・秩父鉄道秩父駅前には懸垂幕や横断幕、大ウエルカムボードを設置、またジオパーク秩父のラッピングバスやラッピング列車の運行を実施している。

→車での観光の拠点となる、地域の「道の駅」全てにジオパーク秩父の導入看板を設置して、パンフレット等の配布を行っている。

(2) ジオパークの拠点施設が小鹿野・長瀨の2か所のみである。

→新たなジオパークの拠点施設として、西武秩父駅仲見世内や浦山ダム資料館うららびあ、また秩父鉄道秩父駅構内や美の山インフォメーションセンターに常設のジオパーク展示・PRコーナーを設置した。

→県民の森 森林学習展示館にジオパーク解説パネルを設置した。

→サテライト的な施設として、各町の歴史民俗資料館や観光関連施設などで、ジオパーク写真展やジオパーク絵画展等のジオパークコーナーを実施した。

(3) 秩父市の和銅宝物館の施設老朽化が進んでいる。

→聖神社にある和銅宝物館は、地元組織である和銅保勝会が管理し、独自にルートを決めガイド等も行っている。

境内から宝物館までの足場が危険であったため、認定後に階段を整備し、手すりなども取り付け危険防止に努めている。

施設の整備については、民間の施設で信仰との問題もあり、この組織に一任するが、当推進協議会としてもジオパーク活動の一環として今後も関わってまいりたい。

和銅散策ルートについては、ガイドマップや解説看板等を整備した。

(4) 「大地の守人を育むジオ学習の聖地」というキャッチコピーはジオパークのキャッチ

フレーズとして適当かどうか疑問がある。

→当推進協議会としても現在「学ぶが楽しい！ジオパーク秩父」を大きなテーマとして掲げ、観光地として学習会ではなく、学習観光を主題に置いたPRを行っている。

推進協議会の運営委員会でも検討しているが、秩父は古くから調査・研究・地質学徒の育成が行われてきた地域であり、わが国の地質学研究や教育に果たしてきた役割は大きい。「大地の守人を育むジオ学習の聖地」としてもPRしていきたいと考えている。
→最近ではジオパーク活動を推進する子どもたち（ジオキッズ）の活動を支援するため、協議会作成のジオパーク探検ガイドブック Q&A や学研教育出版・秩父鉄道とのコラボ事業で、体験学習企画の「ラボ・トレイン」の運行などにも取り組んでいる。

(5) 地質学発祥の地ということだがその説明が素人にわかりにくい。

→秩父地域では明治初期より E.ナウマンや小藤文次郎、また大塚専一、原田豊吉などにより地質調査が行われており、三波川変成岩、秩父古生層、秩父盆地の貝化石など、わが国における先駆的な研究が展開された。明治末から大正にかけては神保小虎により巡検の好適地として紹介されている。

また大正初期には宮沢賢治や保坂嘉内も巡検に訪れている。

それ以前、戦国時代は甲斐武田氏が、江戸時代には平賀源内が金を求めて調査・入山している。

秩父帯やチチブクジラ、チチブサワラなど「ちちぶ」のフレーズも多く、このような歴史を絡めたストーリーでジオパークを説明することにより興味を抱いてもらう人も多い。地質的にも古生代石炭紀から現在までの各地質時代にわたり多様なジオが楽しめる地域であるため、「地質学発祥の地」としてPRし、わかりやすく説明していきたい。

→秩父市報には、3年にわたり「ジオパーク秩父図鑑」というコーナーで、ジオサイトの説明、ジオパークに関するイベント、催しなどを毎月掲載し、市民に全戸配布し、ジオパークの理解を深めてもらっている。

(6) ジオガイドをさらに増やすとともにジオツアー参加者のすそ野を広げる努力を続け、

一般市民への浸透を図る必要がある。

→秩父の豊富な観光資源（札所巡りや祭り、芝桜、SL、アニメなど）や、秩父の歴史・産業・食文化を絡めるなど参加者のニーズに合わせ、「一味違ったジオツアー」を実施し、リピーターの増加を推進している。

→ジオツアーを開催するにあたり、その事前学習も兼ねたガイド養成ツアーを実施している。

→推進協議会の一員である商工会議所では、毎年「秩父学検定」（初級・上級）を実施し、秩父を深く知っていただく取り組みを実施している。

→埼玉5大会の一つである「秩父ってんべえウォーキング 2Days」（約1,200名参加）、また西武鉄道の「駅からハイキング」（参加者約1,000名）などにおいてチェックポイント等でジオワンポイントガイドを開催している。

(7) 今後リピーターを増やしていくためにも、ガイド自身が他のジオパークを訪問するなど、客観的に地域を見直す機会を持ってもらうとともに、相手の立場に立った説明に心がけること。

→JGN 全国大会や関東圏フォーラム等には、ガイドを組織する団体に参加を呼びかけ日本ジオパークの地域との交流を図り、他ジオパークを参考にしてジオガイドの説明に役立てている。

→NPO 法人では、ジオパークの理解が深まるにつれ、個別に他のジオパーク視察等を行い、その紹介、地域との比較や見直す機会を持っている団体も出ている。

(8) 外国からの観光客に理解してもらうため、総括看板や展示、案内板、パンフレットなどの英語をはじめとする多言語化を図る。

→昨年度当ジオパークの同エリア（1市4町）で「秩父地域おもてなし観光公社」が設立され、外国人誘客や、滞在型観光の推進を主として行っており、連携して取り組んでいる。

→英語・中国語・韓国語の観光パンフの作成や、街中の観光案内板については英語対応しているが、ジオサイト解説看板については課題であるため、今後推進協議会でも検討して推し進めたい。

→秩父地域内では外国人におもてなしの心で接するため、県の緊急雇用事業により各企業・事業者呼びかけ、従業員の英会話講座を昨年度より継続して実施している。

(9) ジオサイト内での急な斜面や滑りやすい場所などについては、安全面に配慮した整備を行ってほしい。

→ジオサイトの整備に関しては、「秩父華厳の滝」に降りる遊歩道を木質チップにより整備するなど、当推進協議会のメンバーである各自治体の教育委員会等と連携して対応している。

→崩落等危険個所については、注意看板など周知を早急に行っている。

→認定後、埼玉県立自然の博物館のトイレ改修、おがの化石館の大規模改修など、来訪

者にやさしい施設づくり行われており、引き続き来訪者の立場にたった整備を推進していく。

③ アクションプランや基本計画などの改善点とその理由

<運営組織>

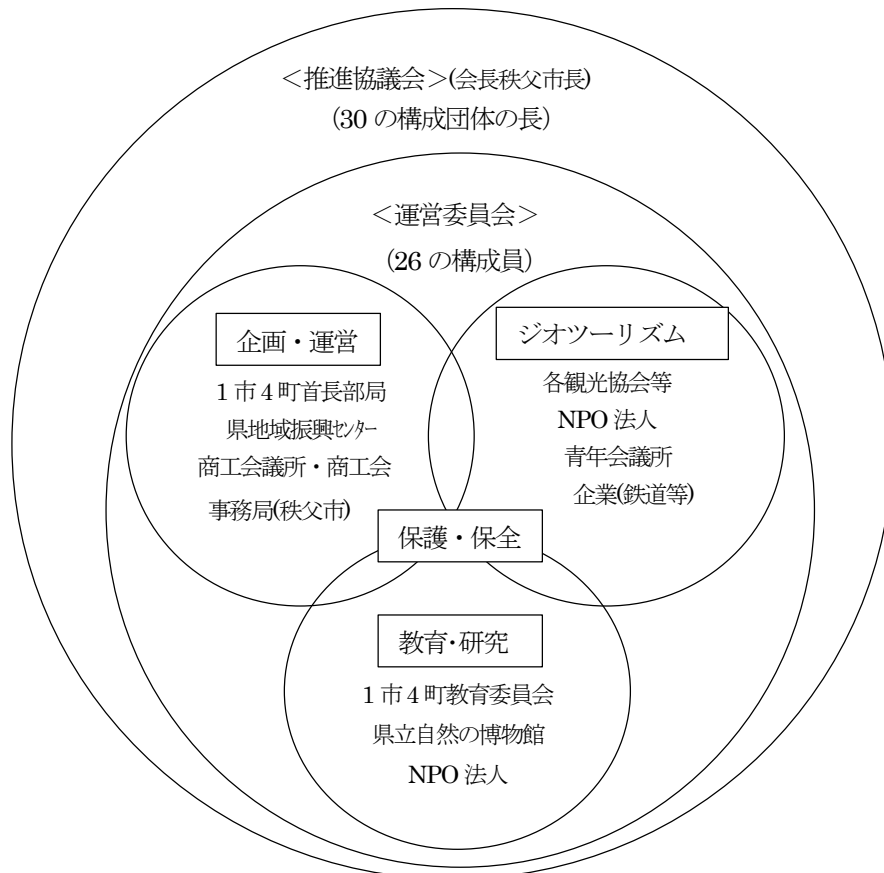
ジオパークの運営は推進協議会により、運営され、総会は年度ごとに開催し、事業実績、予算・決算、事業計画の審議を行っている。

推進協議会は、1市4町の首長・教育委員会、秩父地域内の観光協会、商工会議所・商工会・秩父青年会議所、埼玉県立自然の博物館、埼玉県秩父地域振興センター、NPO法人5団体、秩父鉄道、西武鉄道の30団体の長により構成され、各団体は運営や広報、ガイド養成や教育等の学術面、ツアーや来訪者の受入れ、秩父学検定やジオ商品開発など、役割分担により円滑に協議会運営がなされている。

ジオパーク推進協議会は、ジオツーリズムを強力に推し進めるため、1市4町で構成する定住自立圏構想の中心市である秩父市観光課内に事務局を置き、観光行政や商工行政と連携を図っており、1市4町の各部署にわたるジオパーク関連事業の調整役を務めている。

またその下部組織として協議会員の推薦したフットワークのある実務者レベルの運営委員会(26団体)を組織し、事業企画や協議を行い協議会への提案事項等の審議を行っている。

【秩父まるとジオパーク推進協議会 体制組織図】



今後、現在の組織のさらなる充実を図るとともに、企画・運営、ジオツーリズム、教育研究・保全・保護を柱とした、より機能的なワーキンググループを立ち上げ、ジオパーク活動を活性化していく。

<普及活動の強化>

ジオパーク事務局は、当初市の企画部門に設置されていたが、推進協議会事務局が市の観光課内に設置されたことにより、その強みを生かしたジオパークの様々な普及啓発活動を強化している。

ジオパーク秩父のPR活動については、東京ドームでの「ふるさと日本の祭り」イベントや、西武ドームでのさいたまフェスタ、東京モーターサイクルショーでの出店やポスター展示、また都庁舎・豊島区新庁舎での観光キャンペーンなどに出店し、特に首都圏でのPRを強化し実施している。

その他、レーシングフェスティバル（富士スピードウェイ）でのジオパーク秩父PRや今年度は11月末まで、山梨県より雁坂トンネルの無料化に伴う秩父への観光PRとして、甲府駅での2日間に渡る誘客促進キャンペーンを行った。

特に最近では、秩父を舞台にしたアニメが大ヒットし、聖地巡礼として数多くの若いファンが訪れ秩父地域を回遊するため、アニメイベント等でのジオパークPRを行い、新たなジオファンの普及・獲得を目指す取り組みを実施している。

地域住民に対しては、全戸配布される市の広報紙で、3年に渡りジオサイトの解説、ジオツアーや講演会等の周知などジオパーク特集を掲載しており、ホームページやフェイスブックの更新も随時行って情報周知に努めている。

日本三大曳山祭りである「秩父夜祭」の300インチオーロラビジョンによるジオパーク秩父のPRや、ジオパーク秩父提供の花火の打ち上げなども実施した。

<拠点施設の充実>

観光客や地域住民へ興味を抱かせるPR効果、また地域を深く知っていただくジオパーク教育などジオパーク活動を推進していくうえで、拠点施設の整備・充実はとても大切な要素である。

もともとの拠点施設であった「埼玉県立自然の博物館」や「おがの化石館」は、認定後に大規模改修を実施し、来館者がくつろいで利用できる施設にリニューアルしている。

新たな拠点施設としては、観光客のターミナル駅である西武秩父駅仲見世通り構内、また秩父鉄道秩父駅構内に常設のジオパークコーナーを設置、秩父駅構内では、推進協議会のメンバーであるNPO法人秩父まるごと博物館が常時滞在し観光案内を兼ね、ガイドブックや

タペストリー・ジオ名刺台紙・クリアファイルなどのジオグッズの販売、ガイド依頼の受付等を行っている。

秩父地域にはジオの恵みである地形を活かしたダムが4つ存在するが、その一つ浦山ダムの資料館「うららびあ」の2Fに常設のジオパーク秩父特設コーナーを整備し、構成団体である荒川商工会が運営する1Fの「さくら湖食堂」では、ジオグルメの「浦山ダムカレー」を提供している。

拠点施設については、埼玉県との連携も進んでおり、「三峰ビジターセンター」のリニューアルオープンの支援や、今年度については「関東ふれあいの道インフォメーションセンター」にジオパーク秩父の特設展示を開設、また横瀬の県民の森では「丸山の眺望」県名勝指定を記念して、県民の森「森林学習展示館」にジオパーク解説パネルを設置するなど、ジオパークに関係した施設整備を強力に推し進めている。

西武秩父駅仲見世通り構内ジオパークコーナーは、仲見世リニューアル（温泉施設建設）に伴い、来年には閉鎖されてしまうため、新たな拠点施設として現在建設中の秩父市役所本庁舎フロアに新たに設置予定となっている。

④ ジオサイトの保全状況および保全活動の概要

秩父地域の多くは、秩父多摩甲斐国立公園、県立自然公園のエリアに指定されているため、自然公園法などの法令等により、自然環境の保護と快適な利用が促進されている。

また埼玉県の自然環境保全地域に指定されているエリアも多く、県の自然環境保全条例に基づき環境保全が行われている。

当推進協議会の取り組みとしては、昨年度に、環境省と秩父多摩甲斐国立公園との連携による「秩父ジオパーク源流シンポジウム」を開催しており、荒川の源流に位置する豊かな自然を保全しながら活用するため、基調講演・事例発表・源流ジオツアーを開催して自然環境保護・保全の大切さを認識し啓蒙している。

来年度には「国立公園関係都市協議会」総会の秩父市開催が決定しており、保全・保護活動においても連携していくことの大切さが確認されている。

国立公園関係都市協議会の加盟市は現在全国84市あるが、そのうち日本ジオパーク正会員が24市、準会員も併せると27市となるため、総会の秩父開催においては日本ジオパークのネットワークを活用して、呼びかけや事業メニューの企画など積極的に参画していく。

ジオサイトの保全については、地元住民を対象とした研修会・講演会・ジオツアーなどを通じてジオサイトの意義や価値の浸透を図っており、実質的な活動は、運営委員会として推進協議会に参画している1市4町の教育委員会が各地域についてを担当して、ジオパークを快適に観察できるよう、ポットホールの水抜きやサイトまでの草刈り、歩道等の整備を連携

して行っている。

長瀬の岩畳では県、町、住民が協働して行う「長瀬岩畳クリーン作戦」が展開され、清掃や危険個所のバリケード補修を実施している。

和銅遺跡周辺などは、地元の任意団体が積極的に整備を担当し、毎月1回の清掃活動などジオサイトの住民による保全活動が行われており、そのような行政主体でない地域住民による保全活動がさらに広まるよう啓蒙活動を推進していく。

⑤ 科学教育、防災教育、環境教育などの地域の教育・普及活動の概要

<防災教育>

ジオパークの認定は、住民がさらに大地を学ぶきっかけとなり防災の意識を高めることにつながっている。

秩父市では安全・安心なまちを目指し、7つの対策委員会を設け、その中で地震・土砂災害の対策として、住民等もメンバーとなっている「災害時の安全対策委員会」を設置し、セーフコミュニティの国際認証取得に向け推進している。2015年（H27）7月審査内定済

中山間地域である秩父は土砂災害の危険のある場所が1,000ヶ所以上あり、対策として危機管理課による災害ハザードマップを作成するなどの取り組みを行っている。

また、地震で秩父に影響が大きいとされる「深谷断層による地震」による「ゆれやすさマップ」をメッシュ別震度階級分布図として作成、災害による被害を最小限に抑える減災が可能となるよう活動を推進している。

毎年8月末から9月初旬の防災週間には、自治体、消防が連携し、自治会（町会）を巻き込んだ住民一体（約8,000人参加）の防災訓練を実施し防災教育を行っている。

<学校教育>

日本ジオパーク加盟以降、学校からも自分たちが生まれ住んでいる地域を学ぼうという要求が高まりジオパークを活用した学習が増えている。

1市4町の教育委員会は、推進協議会の構成団体となっており、地域内の小中学校には地域愛醸成の授業の一環として、座学による地域の成り立ちや、ジオサイトでの実地学習などジオパーク勉強会を随時実施している。

小中学校のジオ教育教材としては「ジオパーク秩父解説DVD」を作成して各学校に配布し地域学習で活用されている、またジオキッズのなぜ？にジオ博士が答える「探検ガイドブックQ&A」を作成して子供たちへの普及・啓発を図っている。

中学理科の副教材としては、全県で使われる「理科資料集・27年度版」でジオパーク秩父についての内容が4ページにわたり掲載され、来年度より活用される予定である。

夏休みには、一研究の応援企画として、野外で実際に自然にふれ、子供たちの探究心や地学への興味を高めるジオツアーや、現地での化石・鉱物にふれる体験学習など毎年様々なプログラムを実施しており、子どもたちに人気の高いメニューとなっている。

また、子どもたちに教育する教師や指導者について、県の教育委員会新規採用幼稚園教諭や小中学校の教職員、青少年育成推進員に対してもジオパーク講習会を毎年行い、教える側も秩父を深く知ってもらうための地域学習、自己研さんを行っている。

現在秩父地域では、民泊体験による修学旅行の誘致を積極的に進めており、その体験プログラムの一つとしてもジオパーク学習を取り入れている。

<生涯学習>

自分たちの生まれ育った秩父の成り立ちを理解し、秩父の素晴らしさを再確認してもらうため、地元でのジオパーク講習会や講演会を頻繁に実施し、教育普及活動に努めている。

地元の生涯学習として、公民館活動の「郷土学習教室」のジオパーク講座を開催、また「秩父学セミナー」のプログラムでは、一般講座（約10回）を実施後の実地研修を含めた専門講座（約5回）としても「ジオパーク秩父探究コース」を3年間に渡り開設、担当講師を推進協議会より派遣し講義を実施している。

埼玉県との連携としては、「知事のとことん訪問」でのジオパーク秩父視察がきっかけとなり、「彩の国いきがい大学」でのプログラムの一つとして、毎年ジオパーク秩父講座が開講されている。

その他、放送大学埼玉学習センターでは、放送大学の学生を対象としたジオパーク講座をシリーズで毎年開催しており、秩父地域以外の学生も秩父の成り立ちを学んでいる。

秩父のジオの知識や歴史・文化など、生涯学習の成果を試す点では、推進協議会の一員である秩父商工会議所が「秩父学検定」（初級・上級）を毎年実施している。

⑥ 研究活動の支援状況、ジオパークエリア内に関する学術論文等の新たな研究成果の概要

ジオパークの研究活動については、当推進協議会の中で埼玉県立自然の博物館が学術サポートを担当し中心となって行っており、推進協議会のメンバーであるNPOの会員などもジオパークに関する論文や報告を公表している。

大学生の修士論文や卒業論文の調査依頼も多く、推進協議会の推進員や学芸員が対応し研究支援を行っている。

ジオパークに認定以降は、地質学や鉱物・化石等の研究のみならず、ジオパーク秩父の運営・活動の研究や、ジオパークを基にした防災・減災の研究が進められるようになっている。

⑦ ジオツアー、ガイドツアー、ガイド団体の概要

<ジオツアー・ガイドツアー>

秩父地域については、ジオパークはもとより、秩父夜祭り、札所巡り、芝桜、SL、ライン下り、紅葉、氷柱、アニメの聖地等、地域資源（観光資源）は豊富であり、都心に近い田舎町として年 850 万人もの観光客が訪れている。

ジオツアー、ガイドツアーについても、地質に重点を置いたツアー、歴史に重点を置いたツアー、観光資源と連携したツアーなど、2度3度と秩父へのリピーターになっていただけるよう参加者のニーズに応じて差別化を図った企画を推進している。

人気の高いジオツアーとしては、毎年芝桜まつり期間（4月下旬～5月上旬のゴールデンウィーク）に集中して実施される「街なかをめぐるジオウォーキング」で、芝桜の丘公園に來場した観光客と河成段丘を歩き、街なかを散策するジオガイドツアーであり、当日の呼びかけに応じ毎回 50 名程度の観光客が参加している。

また昨年は秩父札所 34 ヶ所が、12 年に 1 度の午歳総開帳を迎えるにあたり、札所巡礼にジオガイドを併せたバスツアー「ジオ味のついた秩父札所めぐり」を 6 回にわたって実施し、地元からの参加者はもちろん、埼玉県南や東京からの多くの参加者があり好評であった。

その他新しい取り組みとして、オートバイによる街おこしを推進している西秩父商工会とともにオートバイでジオパークをめぐる「バイクジオツアー」を実施した。

企業と連携したツアーについては、JTB と契約を結んでいる「地恵の旅」や、セブンアンドカルチャーのツアーの受入れ、また西武鉄道の「駅からハイキング」のジオガイド、秩父鉄道が運行している SL やジオのラッピング電車を使ったジオツアー、ツアー客の要望に応じて長瀨ライン下りでのジオガイドなど趣向を凝らしたツアーの企画に努めている。

<ガイド団体>

ガイドについて秩父は昔からの観光地ということもあり、札所案内の「秩父先達会」や「和銅保勝会」、また当推進協議会の構成団体である NPO 法人「秩父まるごと博物館」や「ちちぶまちづくり工房」、「秩父の環境を考える会」、「もりと水の源流文化塾」等の観光ガイド団体がすでに多数存在しており、地域のガイド団体同士が「秩父案内人倶楽部」を組織して、ガイド手法の研究やガイド同志の連絡調整を実施している。

これにより料金やコースなど希望に合ったガイドシステムを構築しており、それら既存の観光ガイド団体にジオパーク研修（座学）やコースガイド養成（ツアー研修）をしてジオパークガイドを養成している。

構成団体である NPO 法人等主催のジオツアーについては、毎年、事前に下見を兼ねたジオガイド養成ツアーを実施しており、ガイドレベルの向上を図っている。

その他、特徴的なジオサイトで実際に説明できるガイド養成として、放送大学埼玉学習センターでの放送大学の学生を対象とした「秩父ジオパークボランティアガイド養成講座」が開講され、推進協議会が講師を務めている。

秩父地域については、もともと多様な観光ガイドが存在していることが強みとなっていたが、今後は横の連携を図りながら、さらに質の高いガイド養成システムの構築を検討して継続性を確立していきたい。

秩父は観光地としてガイド団体以外にも、ガイド的な役割を果たしている事業者（タクシー運転手や長瀬ライン下りの船頭等）も数多く存在しており、業務や案内などの中でジオパーク秩父をガイドできるよう、ジオパークガイド講習会を計画しているところである。

⑧ ジオパーク活動におけるリスクマネジメント

ジオツアーには、未舗装の道や岩などの上を進むこともあり、開催時には参加者に危険防止の案内を徹底し、傷害保険に加入するなど危険に対するリスクマネジメントを実施している。

ウォーキングツアーなどは、参加人数に応じてガイドの人数（10～20人に1人）を調整するなど安全配慮に努めている。

ジオサイトの安全管理については、各自治体の教育委員会等が対応しており、推進協議会事務局とも連携して行っている。

ようばけなどの地層の観察できるジオサイトについては、小石の落下や小規模な崩落もあるが、危険だと思われる場合は、早急に注意看板を設置するなど危険周知を行っている。

その他、山での熊の出没情報については「安全・安心メール」等での発信、またへび（マムシ）注意看板なども設置し注意喚起を行っている。

⑨ 地域の持続可能性向上への寄与の概要（経済活動や住民の地域活動の活性化など）

ジオパーク活動推進の取り組みを通して、今まで同じ秩父に住んでいても関わりがなく、個別に活動してきた人たちの間に、新たなネットワークが形成されている。

秩父地域の観光面では、以前は各自治体（1市4町）がまちまちの観光行政を行い、独自の観光施策を打ち出していたが、地域がジオパークに認定されたことにより、連携してやっという機運が高まり、ジオパークと同じ1市4町の観光職員で構成される「おもてなし観光公社」が設立された。この公社はインバウンドの推進や農家民泊などの体験型旅行の企画を積極的に行っており、当推進協議会としても外国の修学旅行のジオガイドや、自然体験プログラムの一カリキュラムとしてジオツアーや講演会も実施している。

<経済活動>

認定前には入館者が少なく廃止の検討もされた「おがの化石館」であったが、認定後は主要なジオサイトである「ようばけ」を活用した体験学習等をPRして、年間来館者数が約1.9倍（H24/H22）に増加となりリニューアルを果たした。

また、ジオパーク秩父の主要施設である「県立自然の博物館」でも、認定後に大規模改修によるリニューアルを実施し、日本地質学発祥の地長瀨のPRや趣向を凝らした様々な特別展等の開催により入館者数は増加している。

ジオパークを楽しむうえでは、その地域でしか味わえないジオの恵みである「食」や「お土産も」大切な要素である。

秩父には古くからの郷土料理である「小昼飯」（こぢゅうはん）という食文化があり、埼玉B級グルメ王選手権で優勝した「みそポテト」や「おっきりこみ」など、構成団体である商工会議所が13品目を指定して提供店を選定し、現在地域内59店舗で提供されている。

お土産品としても、秩父の急峻な地形により植林ができなかった山林に自生する「かえで」に着目、日本では珍しいメープルシロップを生産し、お菓子、サイダー、ゼリーなどの商品開発を行っている。

今年度からは、社会福祉法人「ひまわり福社会」とのコラボレーションにより、化石やパレオパラドキシアをイメージした「ジオパーク秩父クッキー」を商品化し販売している。

<住民の地域活動>

ジオパークを活用した住民の地域活動としては、秩父の貴重な自然の風景を描いた油彩展、「ジオパーク秩父～ちちぶを描く～特別展」を地元の作家を巻き込み教育委員会とともに毎年実施しており、今年度は秩父の多様な地形など30作品が展示されており、ジオパーク秩父を解説したポスターセッションとともに地域に根ざした活動を推進している。

さらに「荒川のうたで楽しむジオパーク秩父コンサート」を合唱団11団体と開催し約500名の方に楽しんでいただいた。これは荒川源流の様々な風景やジオサイトを歌にした「荒川のうた」と、その曲名（ジオサイト等）のバーチャルジオツアーを併せたコンサートで、地元の合唱団と小鹿野町からの要望により実現された企画であり、ジオパークの認知が地域住民にも浸透してきている結果である。

田が多く農家の割合が高い中蒔田地区では、毎年依頼されジオパーク講習会を実施しているが、一つの自治会が独自で、アニメによるジオパークの説明を作成したり、化石の展示や歴史・民俗文化等を研究発表する文化展を開催するに至っている。

⑩ 世界・日本のジオパークネットワーク活動への貢献の概要

2012年（H24）2月にJGN最初の「第1回全国研修会」を秩父で開催し、全国21地域より参加していただいた。

2013年（H25）9月には、下仁田、茨城県北、箱根、銚子の関東ジオパークで連携し、「関東圏ジオパークフェア in 秩父」を開催。これをきっかけにJGN関東大会に発展した。

2014年（H26）6月には、近隣で行われたJGN総会の筑波開催に併せ「せっかくジオツアー in 秩父 GP」を開催、続いて10月には、秩父帯や三波川帯の地層つながりに着目して、銚子、下仁田、四国西予、大分豊後大野のジオパークとともに「太古の絆～約2億年前の地層でつながるジオパークの仲間たち～」を開催するなど、関連するテーマを持った各地のジオパークと新たなネットワークの構築、交流活動を行っている。

また、同年より開催されているジオ女子交流会にも職員が積極的に参加し、女性視点のジオパーク活性化を図っている。

その他JGN等が開催する全国大会はもちろん、イベント等についても積極的に参加しており、ジオパーク間の視察の受入れやバーチャルジオツアー等の講演など、ネットワーク内で随時情報交換を行い、地元フィードバックしている。

今年度においては、観光客のターミナル駅である西武鉄道西武秩父駅仲見世の特設ジオコーナーにおいて、全国大会や日本各地のジオパークのPR・ポスター紹介・パンフレットの配布を実施し、秩父にお出でいただいた観光客に、ジオパーク秩父のPRを兼ね、全国のジオパークへ訪れていただくための普及啓発を行っている。

⑪ 各種自然災害への対応状況（他ジオパークへの支援など含む）の概要

2011年東日本大震災時の秩父地域の最大震度は5弱であり、家屋における瓦の破損、建物の壁における亀裂などの被災が見られた。

推進協議会のメンバーでもある本間岳史、小幡喜一らの2011年M9.0地震埼玉震害調査グループにより調査が行われ、地形・地質と建物被害の関係や被災地点の分布と被災状況、旧秩父市役所と旧市民会館の被災状況などの報告がなされ、減災・防災に役立てられている。

秩父は火山もなく、河川も低いところを流れており水害も少なく比較的災害の少ない地域であるが、一昨年2月に、過去に例を見ない大雪に見舞われ、交通網の遮断や孤立した住宅、ビニールハウスやカーポートの倒壊など甚大な被害を受けた。

この大雪を教訓として地域防災計画の中で「大雪対策計画」を大幅に改定し対策を講じている。

また、当推進協議会の構成団体である埼玉県秩父地域振興センターによる風水害・雪害対策秩父地域会議がH26年度より立ち上がり1市4町の災害への対応に備えている。

災害の支援としては、東日本大震災後に、以前より交流のあった陸前高田市に商工会議所主動により、住民に呼びかけ寄付による衣類や靴、薬品類の支援物資の提供を実施した。

その他この震災で被害にあった福島県の住民や子どもたちを、秩父のミュージアムパークコテージに招いてジオツアーやジオパーク講演会を行い、夏休みの秩父を楽しんでいただく「ふくしまっ子の夏休み」を地元企業と連携して毎年実施している。

⑫ その他、現在の課題と解決方針

ジオパークが地元で根付いて、より多くの住民がジオパークを支持し発展させるためには、ジオパーク活動が秩父の地域経済に恩恵を与え、教育振興に役立っていると実感してもらわなければならない、今後も粘り強い取り組みが求められているのが現状である。

秩父は首都圏に近い風光明媚な観光地として毎年数多くの観光客が訪れるため、ジオパークをアピールしなくても観光客はやって来るという考えがあるように思う。

そのような意識を払拭させるためにも、ジオパークの目的は観光だけでなく、大地の遺産の教育や保護・保全活動が含まれており、人々の暮らしや歴史、今の秩父があるのもすばらしいジオの恵みであることをより理解していただき、地域に役立てていくことが大切であり、今後もさらに推進していかなければならない。

ジオツアーやガイドの申し込みについては、首都圏からの日帰りでの依頼が多く、宿泊に結びつくジオツアーの申し出はまだ多くないため、滞在時間を延ばしていただける魅力付け等は課題となっている。

リピーターとしても二度三度訪れていただけるよう、ガイドシステムの確立やツアー内容・企画の充実について、運営協議会等をフル活用して実践していきたい。

当推進協議会の構成団体では、各構成団体の活動分野により、様々な事業を企画し推進協議会事務局と連携して実施しているが、全体での協議や事務局と事業を企画した個別団体での取り組みとなっているため、今後についてはJGNでの手法のような分科会的なグループ(大きな柱として企画運営・観光・教育・保全保護等)を、組織化して情報共有を密にしたそれぞれの分野に対応するジオパーク活動に取り組んでいきたい。

⑬ 今後の目標と活動計画

一つの自治体では解決が難しい問題・課題・事業を、地域一丸となって積極的に取り組む定住自立圏構想により、ジオパーク活動の5か年の計画である共生ビジョンを策定し事業を推進している。

毎年秩父地域1市4町の首長、市議会議員、町議会議員に事業成果報告を行い、効果検証が行われている。

今後の目標と活動計画（H27年度～H31年度）は、「ちちぶ定住自立圏共生ビジョン」として、別紙添付させていただく。

⑭ その他の日本ジオパーク委員会が求める事項

—

⑮ まとめ

ジオパーク活動を推進することで、美しい景観や、その土地の歴史・食文化などに触れ、それが大地にも密接な関係があると気づき、太古の地球の歴史を探る旅を楽しむことができる。

語らぬ大地にかわって、地域に住む人々が自分たちの地域を自分たちの言葉で魅力を伝えることのできるよう、郷土を学び愛することが第一であり、地元の子供たちが地域に誇りを持てるよう、住んでいる人も、また訪れる人も「素晴らしい」と感じる地域づくりを共に行っていくことがジオパークだと思っている。

定住人口が減少傾向にあるなか、持続可能な地域であり続けるために、環境保全、地域教育、ツーリズムなどジオパーク活動をより推進して秩父の地域振興を図ってまいりたい。

その地域の特色をジオパークにいかにかが大切であり、ジオパークの発展、延いては地域の発展のカギになると考えている。



添付書類

- ① 教育・普及活動一覧（一つ一つリストアップするのではなく、類型に分けてそれぞれ回数を示す。以下同様）
- ② ジオツアー一覧
- ③ ガイド養成活動一覧
- ④ 全ジオサイトの保全状況。あれば保全計画。
- ⑤ GGN、APGN、JGNの会議などへの参加状況一覧
- ⑥ ジオパーク間の交流活動一覧（姉妹関係、講師派遣・受け入れ、共同のイベントなど）
- ⑦ ジオパークでの調査研究活動の現状。ジオパークに関する学術論文等の新たな研究成果の一覧
- ⑧ ジオパーク内の全ての解説板の元原稿を印刷したもの、あるいは解説板の写真（解説板の内容を検討するための資料であり、解説板の文字が読めることが重要。解説板の元原稿ファイルを印刷したものがベスト。道案内的な看板は不要）ただし、解説板の数が多い場合は、代表的なジオサイト、前回審査以降に改善が図られたもの、改善が間に合っていないものなど 50～60 箇所に絞り込んでもよい。
- ⑨ 認定後に作成したジオパークのガイドマップ、ガイドブックの一覧と、代表例を 3 つ
- ⑩ 各ジオパークで前回審査を受けて作成されたアクションプランと、その具体的な進捗状況と、今後の展望。
- ⑪ その他日本ジオパーク委員会が求める資料

現地調査

- ・現地見学より、担当者との面談・聞き取り中心の調査とする。
- ・認定時の宿題をどう解決しているか説明を受けるとともに、以下の様な点について実際の担当者から面談・聞き取りを行う。活動にともない発生している新たな問題があればそれについても確認する。分刻みのスケジュールにしないこと。
- ・調査内容については、審査員と現地事務局で十分に協議し、審査のポイントや目的について共通認識を形成して行うこと。

- ① ジオサイトの保全状況、保全に関わる活動状況
- ② 地球科学の普及活動
- ③ 運営団体の予算・組織・役割分担や人材育成の状況（活動の質、継続的に活動できるか）
- ④ 調査研究活動の支援状況やその成果
- ⑤ 観光協会、地元旅行社など各種民間団体の活動、運営団体との連携状況
- ⑥ ガイド組織の状況と継続性（自立して運営できるか）
- ⑦ ガイドツアーの内容（観光客向け・教育旅行向けなどの実際のツアーを体験）
- ⑧ ジオパークにおけるリスクマネジメント（緊急時の対応、ガイド活動におけるリスク管理教育、組織としての賠償保険など。ジオパーク活動における事故等の責任がガイドなど当事者個人や所属団体に押しつけられる状況になっていないか）
- ⑨ 自然災害への対処の状況（安全対策、防災教育への反映）
- ⑩ 拠点施設の状況
- ⑪ 解説板、ガイドマップ、ガイドブック

現地審査に当たっての留意事項

ジオパークの審査では、審査員や現地関係者が相手の立場や活動を尊重し敬意を払いつつも、各地の活動において優れた点や新たな視点について積極的に評価するとともに、懸念される点については審査過程において検証されなければならない。特に事務局に確認すべき指摘事項については、首長・協議会長や事務局などと詰めたやりとりが出来る時間を、スケジュールの中で必ず確保して、その場でしっかり考え方を確認しておくこと。重要な確認事項については、視察予定のスケジュールなどに関わらず、できるだけ積み残しをしないこと。

添付書類 (認定後) 2011年 (H23) 9月～

① 教育・普及活動一覧

【教育活動】

- ・ 小・中学生ジオパーク勉強会・・・29回
(地域内小・中学校)
- ・ 教職員・教育委員会等ジオパーク研修会・・・14回
(幼稚園、小・中学校教職員、杉並区・朝霞市教育委員会等)
- ・ 外国人高校生等のジオパーク秩父ガイド・・・2回
(韓国・デンマーク)
- ・ 夏休み応援企画ジオパーク学習会等・・・8回
(ジオツアー、化石採取・鉱物採取体験等)
- ・ 視察受入れ、近隣ジオパークの視察研修・・・20回
(埼玉県議団、つくば市、南足柄市、福島市、津南町、銚子 GP、下仁田 GP 等)
- ・ ジオパーク地元講習会・講演会・・・49回
(郷土学習教室、生涯学習講座、住民向けジオパーク講座、ジオ端会議等)
- ・ ジオパーク外部講習会・講演会・・・22回
(豊島区、埼玉県、さいたま市、日本山岳会、埼玉信用組合、大学での講演等)
- ・ 放送大学講演・・・年4～5回 (大宮校)
- ・ 県いきがい大学・・・年2回 (東松山学園・熊谷学園)
- ・ 秩父学セミナー・・・年10回 (一般講座) ・年5回 (専門講座)
- ・ 大学生支援 卒論支援等・・・9回
(早稲田・首都大学東京・慶応・立教・千葉・釧路・千葉・駿河・東京学芸大)
- ・ ジオサイト看板検討・・・1回 (早稲田大学)
- ・ ジオパーク説明 DVD を小・中学校へ配布・・・地域内小・中学校に配布

【普及活動】

- ・ ジオパーク秩父の核施設

県立自然の博物館、おがの化石館に加え、認定後新たに、西武鉄道西武秩父駅仲見世、秩父鉄道秩父駅構内、浦山ダム資料館うららびあ、県立三峰ビジターセンター、大滝歴史民俗資料館、関東ふれあいの道インフォメーションセンター、にジオパーク秩父特設コーナーを設置。

- ・取材と広報

NHK、日本テレビ、フジテレビ、テレビ埼玉、秩父ケーブルテレビ、埼玉新聞
埼玉県庁広報、埼玉県文化財だより、秩父市報、(株)マイナビ、小学館「Be-pal」
スバル自動車「Cartopia」、公益社団法人「日本測量会」、るるぶ特別版「地恵の
旅」等

- ・実施したジオパーク秩父の展示

西武秩父駅仲見世（日本全国のジオパーク展示）、県民の森資料館（解説坂設置）、
地場産センター（ジオ写真展）、ミューズパークフェスタ（テント内展示）、浦山
民俗資料館（ジオコーナー展示）、長瀬駅観光案内所（ジオ写真展）、秩父芸術文
化会館（特別展）、東京ビックサイト（旅博2012）、環境フェスタ（ジオ展示）小
鹿野観光交流館（コース紹介）、聖地公園管理事務所（写真・パネル展示）、矢尾
百貨店（パネル展示）等

- ・イベント等ジオパーク秩父PR

西武沿線サミット、トヨタガズレーシングフェスティバル、東京モーターサイク
ルショー、甲武信源流サミット、東京ドーム「ふるさと日本の祭り」、西武ドーム
「さいたまフェスタ」、越谷レイクタウン「埼玉県フェア2014」、池袋フォーク&
カントリー2015、都庁舎・新豊島区役所観光キャンペーン、甲府駅前キャンペーン、
アニメ「ここさけ」先行上映会等

- ・ジオパーク秩父PR看板・解説看板・横断幕、フラッグ等の設置

- ・モデルコースマップ・ジオパーク秩父解説DVD、ジオパーク秩父名刺台紙、タペス
トリー、クリアファイル、ジオアート作成・販売

- ・ジオパークフォトコンサート、写真展開催

- ・ジオパーク秩父ホームページ、フェイスブックの活用、QSLカードの発行

- ・ジオバス、ジオ鉄、ジオカー（公用車）のラッピング

- ・TVコマーシャル・ラジオコマーシャル（西武鉄道との連携）、西武池袋駅構内デジ
タルサイネージ、西武秩父駅・秩父駅のウエルカムボード、秩父夜祭時ジオパークオ
ーロラビジョン設置、ジオパーク秩父提供の花火打ち上げ

- ・スタンプラリー、ジオアニマルの実施

- ・ジオパーク絵画展、ジオパークコンサートの開催

- ・ジオグルメ、ジオ菓子、小昼飯(こちゅうはん)

- ・ウオーキングイベント・芝桜まつり・アニメとのコラボレーション

- ・ジオパーク秩父サポーターの募集

- ・ジオパークユニフォーム（ポロシャツ、ブルゾン、トレーナー・キャップ等）

PR連携企業 西武鉄道、西武バス、秩父鉄道、丸通タクシー、学研、JTB
三原産業、トヨタレンタリース

② ジオツアー一覧

- ・ジオウォーキング・・・41回
(芝桜まつりジオウォーキング、一味違った札所巡り、各コースを巡るジオウォーキング、NPO 法人のジオツアー等)
- ・ジオバスツアー・・・34回
(ジオモニターバスツアー、ジオ味のついた札所巡り、メディアバスツアー、都市交流バスハイク等)
- ・ジオサイト観察会・・・11回 (県立自然の博物館)
- ・ジオパークガイド・・・22回
(ウォーキング等イベント時のジオガイド、企業、団体からのジオガイド依頼等)
- ・視察受入れ (ジオツアー)・・・13回
(沖縄本部半島 GP 推進協議会、秋川流域 GP 推進協議会、那須烏山市議会等)
- ・ジオパークトレイン (ジオ鉄)・・・6回
(ジオ鉄モニターツアー、SL ミュージアムトレイン、ラボトレイン等)
- ・ジオバイクツアー・・・2回 (西秩父商工会、ウエルカムライダーズ)

【環境省との連携】

- ・源流シンポジウム・源流ツアー

【総務省との連携】

- ・地球科学学習観光 10 コース

【旅行会社との連携】

- ・JTB 地恵の旅
- ・セブンカルチャースクール

【鉄道と連携】

- ・ラボトレイン (秩父鉄道・学研と連携)
- ・ウォーキングハイキング (西武鉄道・埼玉県と連携)

【国土緑化推進機構と連携】

- ・大地の恵み 体感ジオツアー (緑の募金事業)

③ ガイド養成活動一覧

- ・コースガイド養成研修・・・18回
(ジオツアーコースのガイド養成ツアーの実施、NPO 法人等)
- ・ガイド養成講座・・・12回
(ガイド団体養成講座、ボランティアガイド養成講座、放送大学埼玉学習センター等)
- ・秩父案内人倶楽部(秩父地域おもてなし観光公社)との連携(10団体)
- ・秩父学検定(初級・上級)・・・毎年1回開催(2月頃)

④ 全ジオサイトの保全状況

- 1 美の山・・・県の環境管理事務所が管理、山頂は公園でありきれいに整備されている。
- 2 出牛ー黒谷断層・・・群馬県から皆野出牛ー国神ー秩父市黒谷に至る南北性の断層、国神神社では地元による清掃、大イチョウの保全が行われている。
- 3 犬木の不整合・・・小鹿野町で管理、県の天然記念物に指定、サイトまで下るため危険防止に丸太の階段等整備されている。
- 4 若御子断層洞と浦山ダム・・・断層洞は県の天然記念物に指定、ダムは浦山ダム管理事務所で管理、ダム資料館にはジオコーナーを設置。
- 5 前原の不整合・・・皆野町で管理、県の天然記念物に指定、サイトまで崖を下るため丸太の階段等が整備されている。
- 6 長瀨岩畳・・・長瀨町で管理、地域が国の名勝・天然記念物に指定されており保全されている。県の主導により「長瀨岩畳クリーン作戦」(清掃活動・危険個所のバリケード補修)も行われている。
- 7 虎岩・・・長瀨町で管理、6の長瀨岩畳内上流にある。
- 8 菊水岩・・・長瀨町で管理、町指定天然記念物に指定されており保全されている。
- 9 紅簾石片岩・・・皆野町で管理、県の天然記念物に指定、サイトまで下るため手すり、階段が整備されている。大きなポットホールもあり時期により水抜き、清掃を実施している。
- 10 蛇紋岩・・・皆野町で管理、荒川岸に点在する。
- 11 大達原の石灰岩・・・秩父市で管理、秩父往還として手掘りのトンネルがある。
景色を楽しむためNPOでログハウスを設置。
- 12 雁行脈・・・長瀨町で管理、6の長瀨岩畳下流に位置する。
- 13 青石塔婆・・・長瀨町で管理、国指定記念物(史跡)として適切に保全されている。
- 14 和銅遺跡・・・地元の団体和銅保勝会が管理清掃・整備を行っている、県の旧跡指定。

- 15 橋立鍾乳洞・・・札所 28 番もあり、県内唯一の観光洞として整備され保全している。
県指定天然記念物。
- 16 神庭洞窟・・・秩父市で管理、県指定の史跡であり保全されている。
- 17 秩父華巖の滝・・・皆野町で管理、木質チップ遊歩道・橋・手すり等整備している。
- 18 丸神の滝・・・小鹿野町で管理、滝前県自然環境保全地域であり保全されている。
- 19 二子山・・・県立西秩父自然公園内にあり保全されている。
- 20 中津峡・・・秩父市で管理、また国立公園のエリアとしても指定されている。
- 21 山中地溝帯・・・西秩父・両神の県立自然公園のエリアに指定されており保全されている。
- 22 皆本沢・・・小鹿野町で管理、宮沢賢治が調査に訪れた地の看板あり、現在解説看板設置を検討中。
- 23 栃本・・・秩父市大滝支所で管理
- 24 秩父帯～四万十帯・・・多くのエリアが国立公園・県立自然公園として指定。
- 25 札所 31 番観音院・・・札所 31 番で管理・保全、巡礼者が訪れるため整備されている。
- 26 海底地滑り跡・・・秩父市で管理、市の天然記念物に指定され保全されている。
- 27 札所 32 番法性寺・・・札所 32 番で管理・保全、巡礼者が訪れるため整備されている。
- 28 ようばけ・・・小鹿野町で管理、県の天然記念物に指定、拠点施設の化石館があり保全状況は良い。
- 29 尾田蒔丘陵・・・丘陵一帯がミュージアムパークとして管理事務所もあり整備されている。
- 30 羊山丘陵・・・丘陵一帯が羊山公園として管理事務所もあり整備されている。
- 31 太田たんぼ・・・地元農家による稲作が盛んである、一帯は土地改良により整備されている。
- 32 寺坂の棚田・・・横瀬町で管理、オーナー制度により棚田が保全されている。
景観保全看板も設置している。
- 33 段丘崖・・・秩父市の街なか存在、環境部局によるクリーンウォーキング等も実施される。
- 34 札所 4 番金昌寺・・・札所 4 番で管理・保全、巡礼者が訪れるため整備されている。

⑤ GGN, APGN, JGN の会議などへの参加状況一覧

- ・JGN 理事会・総会 (2011・9)
- ・第 2 回 JGN 全国大会洞爺湖有珠山大会 (2011・9)
新規認定地域認定書の授与、秩父ジオパーク取組み発表
- ・第 1 回 JGN 全国研修会の秩父開催 (2012・2)

全国 21 地域より 50 名参加 (秩父ミュージックパーク コテージホール)

- ・ JGN 総会 (2012・5)
- ・ 第 5 回ジオパーク国際ユネスコ会議 (島原半島ジオパーク 2012・5)
ジオパーク秩父ポスター展示・DVD 紹介
- ・ 日本地球惑星科学連合 2012 年大会 (幕張メッセ 2012・5)
- ・ JGN 理事会 (2012・11)
- ・ 第 3 回 JGN 全国大会室戸大会 (2012・11)
ポスターセッション、シンポジウム、ジオツアー参加
- ・ 第 2 回 JGN 全国研修会 (磐梯山ジオパーク 2013・2)
ジオサイト解説看板ワークショップで研修
- ・ JGN 役員地域事務局長会議 (2013・4)
- ・ JGN 審査研究会 (2013・5)
- ・ JGN 理事会・総会 (2013・5)
- ・ 日本地球惑星科学連合 2013 年大会 (幕張メッセ 2013・5)
DSC (デジタルスタンプコレクション) によるジオサイト巡りポスター発表
- ・ JGN 認定審査現地視察 (沖縄本部半島ジオパーク 2013・6)
- ・ JGN 理事会・公開プレゼンテーション (2013・7)
- ・ JGN 認定審査補助 (沖縄本部半島ジオパーク 2013・8)
- ・ JGN 役員地域事務局長会議 (2013・10)
- ・ 第 4 回 JGN 全国大会隠岐大会 (2013・10)
ポスターセッション、ジオツアー参加
- ・ JGN 関東ブロック研修会 (茨城県北ジオパーク 2013・11)
- ・ 第 3 回 JGN 全国研修会 (霧島ジオパーク 2013・11)
ジオパーク秩父の取組みについて事例発表
- ・ ジオパークワンダーランド展 (渋谷 2014・2)
地場産品出店、ジオパーク秩父 PR
- ・ JGN 現地審査員研修会 (2014・4)
- ・ JGN 理事会 (2014・4)
- ・ 日本地球惑星科学連合 2014 年大会 (パシフィコ横浜 2014・4)
「地球科学学習観光推進事業」成果報告ポスター発表
- ・ APGN 共催第 4 回全国研修会 (2014・5)
- ・ JGN 総会 (つくば産業技術総合研究所 2014・5)
- ・ 第 5 回 JGN 全国大会南アルプス大会 (2014・9)

- ・ JGN 関東地区箱根大会 (2014・10)
観光地でのジオパークのおもてなし協議
- ・ 第 5 回 JGN 全国研修会 (三陸ジオパーク 2014・10)
テーマ「自然災害とジオパーク」
- ・ JGN 役員地域事務局長会議 (2015・2)
- ・ JGN 理事会 (2015・4)
- ・ 日本地球惑星科学連合 2015 年大会 (幕張メッセ 2015・5)
一味違った (ジオ味を付けた) 札所巡りポスター発表
- ・ JGN 総会 全国研修会 認定プレゼン 活性化部会会議 (2015・5)
- ・ APGN 山陰海岸シンポジウムでの JGN ガイドフォーラム (2015・9)
- ・ 第 6 回 JGN 霧島全国大会 参加予定 (2015・10)
- ・ 現地審査員・活性化部会合同会議 参加予定 (2015・10)
- ・ JGN 会員地域事務局長会議 参加予定 (2015・10)
- ・ JGN 関東地区銚子大会 参加予定 (2015・11)

⑥ ジオパーク間の交流活動一覧

- ・ 第 1 回全国研修会の秩父開催 (2012・2)
- ・ 沖縄本部半島ジオパーク推進協議会視察受入れ (2012・5)
- ・ 秋川流域ジオパーク推進会議視察受入れ (2012・10)
- ・ 新潟県津南町教育委員会視察受入れ (2012・10)
- ・ 下仁田ジオパークでのジオ学習会 (2012・11)
- ・ つくば市視察受入れ (2013・2)
- ・ 山陰海岸ジオパーク推進協議会視察受入れ (2013・3)
- ・ 化石研究会シンポジウム (下仁田ジオパーク 2013・6)
秩父ジオパーク内の化石を使った教育等の取組発表
- ・ 新潟県津南町町議会視察受入れ (2013・8)
- ・ 阿蘇ジオパークへ視察研修 (2013・9)
- ・ 関東圏ジオパークネットワークフェア in 秩父ジオパークの開催 (2013・9)
関東 5 ジオパーク (下仁田・茨城県北・箱根・銚子・秩父) が秩父で開催
- ・ 三笠ジオパーク視察受入れ (2013・11)
- ・ 銚子ジオパークとの相互視察研修
秩父→銚子(2014・1 21 名参加) 銚子→秩父(2014・4 16 名来秩)
- ・ おおいと豊後大野・隠岐ジオパーク視察受入れ (2014・5)

- ・東北ジオパークフォーラム in ゆざわ
- ・せっかくジオツアー in 秩父ジオパーク (2014・6)
総会の筑波開催に併せ、秩父で2コース開催
- ・第1回ジオ女子交流会参加 (2014・8)
(銚子・伊豆半島・箱根・早大・民間)
- ・東北ジオパークフォーラム in ゆざわ (2014・8)
- ・太古の絆～約2億年前の地層でつながるジオパークの仲間たち～の秩父開催
秩父帯の地層でつながるジオパークによる大会
(銚子・下仁田・四国西予・おおいた豊後大野 2014・10)
- ・那須烏山ジオパーク視察受入れ (2014・11)
- ・秋川流域ジオパーク視察受入れ (2015・1)
- ・下仁田ジオパーク視察受入れ (2015・1)
- ・青森県トークセッション発表 (2015・2)
- ・地学教育サミット～ジオパークと教育～ (小田原市 2015・3)
ジオパーク秩父の事例発表、ポスター展示
- ・ジオ女子企画第4回会議参加 (2015・7)
- ・苗場山麓ジオパークとの相互視察研修
苗場山麓→秩父(2013・8 15名参加) 秩父→苗場山麓(2015・7 6名参加)
- ・ジオ女@Tokyo 参加 (2015・9)

⑦ ジオパークでの調査研究活動の現状。ジオパークに関する学術論文等の新たな研究成果の一覧

当推進協議会では埼玉県立自然の博物館が中心となり調査研究活動を担っている。

学術論文等の新たな研究成果の一覧は下記のとおりである。

- ・高木秀雄 (2013) ジオパークを活用した地学教育の実践
早稲田教育評論, 27, 1, 165-182.
- ・吉田健一・宮城 敏 (2014) ジオパーク秩父と化石を使った教育
化石研究会会誌, 46, 95-100.
- ・小川滋之・沖津 進 (2011) 外秩父山地の地すべり地におけるヤエガワカンバ林の分布要因 地理学評論, 84, 1, 74-84.
- ・小川滋之・沖津 進 (2012) 外秩父山地の地すべり地における微地形と植生分布の関係
地域研究, 52, 24-30.

- ・関根一昭・本間岳史・小林健助・小幡喜一（2014）埼玉県秩父地域における建物被災－被害分布の特徴と旧秩父市役所の被災状況－ 地学団体研究会専報, 60, 97－109.
- ・本間岳史（2012）大地の守人を育むジオ学習の聖地－“ジオ”の魅力と伝統を伝える「ジオパーク秩父」が発進－ 天然ガス, 55, 4, 34－45. 天然ガス鉱業会
- ・小幡喜一（2013）秩父黒谷の和銅露天掘り跡
地学教育と科学運動, 70, 63－68.
- ・本間岳史（2011）秩父の大地の魅力－秩父まるごとジオパークへ向けたテーマとストーリーの提案－ 埼玉県立自然の博物館研究報告, 5, 13－33.
- ・指村奈穂子・須田大樹・岩田豊太郎（2011）埼玉県におけるカバノキ属9種の分布と地形・地質との関係 埼玉県立自然の博物館研究報告, 5, 43－52.
- ・松岡喜久次（2011）埼玉県秩父市大滝, 秩父帯南帯の両神ユニットから産出した放散虫化石 埼玉県立自然の博物館研究報告, 5, 111-114.
- ・小林まさ代（2012）関東山地の三波川帯, 釜伏山に産出する超苦鉄質岩の岩石記載
埼玉県立自然の博物館研究報告, 6, 11－17.
- ・足立久男・小泉 潔（2012）山中地溝帯のアーチおよびブロック構造の成因に関する一考察 埼玉県立自然の博物館研究報告, 6, 19－36.
- ・松岡喜久治（2012）秩父帯北帯、埼玉県横瀬町芦ヶ久保～飯能市上名栗から産するジュラ紀放散虫化石 埼玉県立自然の博物館研究報告, 6, 59－68.
- ・井上素子・本間岳史（2012）ジオパーク秩父－大地の守人を育むジオ学習の聖地－
月刊地理, 57-10, 古今書院
- ・井上素子・町田尚久（2012）ジオパーク秩父を歩く－秩父市街地の湧水をめぐるジオヒストリー 月刊地図中心, 483, 10－13, 日本地図センター
- ・北川博道・坂本 治・長谷川義和（2013）埼玉県産出のパレオパラドキシア化石について 埼玉県立自然の博物館研究報告, 7, 15－22.
- ・北川博道（2015）埼玉県秩父市大滝の洞穴より産出したクマ化石
埼玉県立自然の博物館研究報告, 9, 1－20.
- ・本間岳史（2014）画家・福沢一郎と地質学－画集「秩父山塊」から－
地学教育と科学運動, 72, 83－91.
- ・本間岳史（2014）自然景観－両神山之図（埼玉県小鹿野町）・荒川回流図（同秩父市）
「新編武蔵風土記稿を読む」 138－142. さきたま出版会
- ・坂口 豪（2015）ジオパークの発展にともなう地域観光の再編と持続性
修士論文

⑧ ジオパーク内の解説板一覧表

- ． 羊山公園見晴らしの丘
- ． 羊山公園芝桜の丘
- ． 西武鉄道西武秩父駅
- ． 札所4番 金昌寺
- ． 美の山
- ． ミューズパーク展望台
- ． 和銅遺跡（4ヶ所）
- ． 妙見七つ井戸（8ヶ所）
- ． 秩父神社乳銀杏
- ． 道の駅ちちぶ
- ． 道の駅あらかわ
- ． 道の駅よしだ
- ． 道の駅おおたき
- ． 道の駅みなの
- ． 道の駅おがの
- ． 道の駅よこぜ
- ． 取方の大露頭（2ヶ所）
- ． 子の神の滝
- ． 白砂公園
- ． 下吉田海底地すべり
- ． 大滝中津森林科学館
- ． 皆野中学校前
- ． 秩父華巖の滝
- ． 紅簾石片岩（2ヶ所）
- ． 埼玉県立自然の博物館（2ヶ所）
- ． 長瀬虎岩
- ． 秩父鉄道長瀬駅
- ． 長瀬樋口 JA 前
- ． 菊水岩（2ヶ所）
- ． 西浦採銅坑跡
- ． 法善寺
- ． おがの化石館
- ． ようばけ
- ． 四季の丘（2ヶ所）
- ． 犬木の不整合
- ． 札所31番 観音院（水子地蔵）
- ． 札所32番 法性寺（2ヶ所）
- ． 般若の丘公園（4ヶ所）
- ． 丸神の滝
- ． 横瀬寺坂棚田（4ヶ所）

⑨ 認定後に作成したジオパークガイドマップ・ガイドブックの一覧と代表例を3つ

- ・ジオパーク秩父パンフレット
- ・ジオパーク秩父モデルコース MAP vol.1
- ・ジオパーク秩父モデルコース MAP vol.2
- ・デジタルスタンプコレクション付きジオパーク秩父ガイドブック
- ・ジオキッズの探検ガイドブック
- ・太古の絆シンポジウム ～約2億年前の地層でつながるジオパークの仲間たち～
- ・ちちぶジオ鉄 ～ジオパークを鉄道で巡る秩父旅～
- ・長瀬自然史マップ（県立自然の博物館）

代表例3つは別途添付

⑩ 各ジオパークで前回審査を受けて作成されたアクションプランとその具体的な進捗状況と今後の展望

【前回審査を受けて作成されたアクションプラン】

前回審査を受けて作成された（提出された）アクションプランは次のとおりである。

【具体的な進捗状況と今後の展望】

作成したアクションプランの具体的な進捗状況と今後の展望については以下のとおりである。

ー今後の課題、改善すべき点¹についてー

首都圏でのジオパーク秩父 PR については、キャンペーンの中でも来場者の多いイベント（東京ドームや西武ドーム、池袋駅等）を中心に様々なイベントに参加し PR を行っている。

また秩父駅前や西武秩父駅構内の大型ウェルカムボードや、地域内7ヶ所の道の駅にはジオパーク秩父の導入解説看板を設置済みでありパンフ等の配布を行っている。

その他、ジオパークの広がりとして、当協議会メンバー以外にも地域外（県南）の NPO での取り組みのなかで、池袋・さいたま新都心を起点に秩父のジオサイトを巡るバスツアーを毎年秋に実施しており、また浦和駅東口パルコで「ジオパーク秩父」に関する講演会・展示会・化石模型づくりなども実施し、県南での普及・啓発を行っている。

今後も事務局が観光課である強みを活かし、キャンペーン等には推進協議会として積極的に参加し、豊島区、荒川区との姉妹都市協定等も活用して、引き続き首都圏での効果的な宣伝活動を実施していく。

ー今後の課題、改善すべき点²についてー

拠点施設整備については、県の施設や西武鉄道、秩父鉄道、ダム管理事務所などと連携して力を入れて取り組んできた。

<認定後新たに展開した施設>

- ・観光案内所（秩父駅）…推進協議会より NPO 秩父まるごと博物館に運営委託
- ・常設のジオ特設コーナー（西武秩父駅仲見世、浦山ダム資料館、美の山インフォメーションセンター）
- ・常設のジオパネル展示（大滝歴史民俗資料館、県民の森学習展示館）
- ・ジオパーク関連リニューアル支援（三峰ビジターセンター、小鹿野町観光交流館）
- ・ジオパーク特別展や写真展、パネル展示などのイベントもエリア内様々な施設で実施している。（地場産センター、秩父芸術文化会館、浦山民俗資料館、長瀬観光案内所、矢尾百貨店等）

今後は新たに整備したこれら施設の展示資料の更新や、ジオパークの取り組みなど展示内容を充実する整備計画を推進協議会で検討し順次リニューアルを実施していく。

—今後の課題、改善すべき点³について—

地元での和銅保勝会という組織が管理しているが、認定後に協議し、危険と思われる宝物館の足場について階段の設置や手すり等の設置整備を行っている。

宝物館に収められている和銅石や銅製蜈蚣などの御神宝は貴重なものであり、施設の開設には管理者2人の立会いのもと開場するなど、厳重に保管されている。

和銅遺跡については、観光シーズンには来訪者も多く、和銅保勝会が窓口となりガイドも行っているため、引き続き連携して活動を推進したい。

—今後の課題、改善すべき点⁴について—

推進協議会としても、「学ぶが楽しい！ジオパーク秩父」をテーマとして学習観光を推進しており、パンフレット等でも大きな主題としてPRしている。

現在、秩父では首都圏からの修学旅行誘致や、農家民泊など観光学習体験に力を入れており、ジオパークガイドやツアーもそのプログラムの一つに組み込み取り組んでいる。

教育旅行としては、JTBの「地恵の旅」ともジオツアー契約を締結した。

これら体験型の学習観光は、ニーズがあると見込まれるため、今後はキャンペーンでのPRや旅行各社への働きかけなど、構成観光団体と連携し誘客の促進を図っていく。

—今後の課題、改善すべき点⁵について—

子どもたちへの普及活動として、ホームページでジオキッズコーナーを設け、ジオパークって何？から、秩父のジオトリビアなども掲載している。

また、中学理科の副教材として来年度よりジオパーク秩父が掲載され、全県下で学習されることとなっている。

秩父ならではのセールスポイントとすると、明治初期より地質の先駆的な研究がおこなわれていること、また、宮沢賢治の巡検や、古くは武田信玄、平賀源内なども調査・入山しておりそれら歴史上の有名な人物とジオストーリーを組み立て、興味を抱かせる工夫も行っている。

ジオパークのガイドについては、地域の暮らしや歴史・産業などをジオストーリーとして結び付け、専門用語をそのまま使うのではなく解説しながらわかりやすく伝え、一方通行でないコミュニケーションを取りながら「楽しみながら地域を学ぶ」ことを念頭に置いているが、今後のガイド研修等でもさらに周知していきたい。

・今後の課題、改善すべき点⁶について

ガイド団体は以前から存在し、個々に活動していたが、各ガイド団体で構成する「秩父案内人倶楽部」が新たに設立され、横の繋がりができ連携した観光ガイドシステムが確立されつつある。

ガイド養成活動としては、秩父地域のみならず、放送大学埼玉学習センターでのジオパーク秩父ボランティアガイド養成講座が開講され毎年講義を行っている。

今後はガイド団体以外（タクシー運転手やライン下りの船頭等）でもジオパークを伝え、語るができるよう講習会等の開催を実施していきたい。

ジオツアーについては、地域資源を活用したジオパークを楽しむ様々な企画を実施している。

ジオトレインやSLを使ったジオ鉄のツアーや、バイクジオツアー、ガイド依頼に応じた長瀬ライン下りでのジオガイドなどを実施、また自治体や鉄道等が実施するウォーキングイベント（1,000人規模）等でのワンポイントガイドや春の芝桜まつり（期間中約60万人）でのジオガイドなど大勢の観光客が訪れるイベントでのガイド等を実施している。

ー今後の課題、改善すべき点⁷についてー

南アルプス全国大会、三陸ジオパーク全国研修会、関東地区大会や関東ブロック研修会には、すでにガイドが訪れ研修、自己研さんを行っている。

ガイド団体からも他のジオパークを訪問したいとの要望もあり、今年度もJGN関東大会にバス1台で参加して新たなネットワークを構築し、地元ガイド活動に活かしてもらう予定である。

遠隔地のジオパークについては、ガイド団体でもなかなか訪問が困難なため、今後は推進協議会で参加団体の年度計画等を検討し実施してまいりたい。

普通の観光客を対象とした取り組みについては、毎年春の観光シーズンに当日募集して行う、街なか散策を含めた河成段丘を巡るジオツアーが人気である。

全国各地のジオパークについては、今年8月より西武秩父駅仲見世ギャラリーにおいてポスター展示、パンフレットの配布を実施し日本各地のジオパークの魅力を紹介している。

・今後の課題、改善すべき点⁸について

街なかの観光案内看板については、リニューアル時にジオサイト等の記述を含む英語表記が進められている。また秩父の観光マップでは英語・中国語・韓国語対応で作成している。

ジオサイト解説看板については、地質用語等の英語表記を行っているが、解説文の整備が現在の課題となっており、今後定住自立圏の予算を活用して整備を推進する。

認定後にエリアである1市4町の定住自立圏構想の枠組みで、インバウンドや滞在型観光を推進する「秩父地域おもてなし観光公社」が設立されたため、外国人誘致やその対応については連携して取り組んでいく。

・今後の課題、改善すべき点⁹について

ジオサイトの管理については、各自治体の教育委員会と連携し対応している状況である。

主要なジオサイトまでの急な斜面等は、危険防止のため丸太を埋め込んだ階段や手すりが整備されているが、老朽化や大雨等により稀に崩落する場合もあるため、各町との情報収集と早急な対応を実施している。

整備に関する予算については、各自治体で対応しているが、推進協議会でも随時見回りを行い協議するなど安全面に配慮した修繕・整備を行っていく。